

令和6年度「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
未来を生き抜くためのエージェンシー育成プログラム委託業務
公募型プロポーザル選定委員会議事録（議事要旨）

項 目		内 容
1	日 時	令和6年4月24日（水）13時30分から16時10分まで
2	場 所	Zoomによるオンライン実施
3	出席委員	広島県教育委員会事務局学びの変革推進部 高校教育指導課長 広島県教育委員会事務局管理部 総務課長 地域政策局 国際課長（代理：地域政策局 国際課 参事） 広島県教育委員会事務局学びの変革推進部 義務教育指導課長 （代理：広島県教育委員会事務局学びの変革推進部 義務教育指導課 主任指導主事） 広島県教育委員会事務局学びの変革推進部 個別最適な学び担当課長
4	議 題	プレゼンテーション審査
5	担当部署	広島県教育委員会事務局学びの変革推進部高校教育指導課
6	開催方法	オンライン
7	議事内容	<p>1 審査方法 提案された企画提案書を基にプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、最も得点が上位の提案者を最優秀提案者として選定した。</p> <p>2 審査結果 (1) 審査対象者 ① アイ・シー・ネット株式会社 ② 株式会社ミエタ ③ 株式会社JTB 広島支店 ④ 株式会社日本旅行 広島支店 (2) 審査対象者の評価値 審査対象者の評価値については、別紙「公募型プロポーザル結果一覧」及び「評価基準に基づく評価項目別の総合値」のとおり。 (3) 最優秀提案者及び選定理由 ア 最優秀提案者：株式会社JTB 広島支店 イ 選定理由 ・プログラム全体を通して、身に付けさせたい力を評価する工夫や、外部から参加する生徒を巻き込んで実施する3つのイベントにより、リーダーシップや自信といった生徒の成長を段階的に育成する工夫が取り入れられている。 ・インタラクティブプログラムが2回と高校生国際会議が1回の計3回の実践の場を設定し、生徒がリーダーシップを発揮しながら取り組んでいける構成</p>

になっており、資質・能力の伸びを自身で実感できる場が複数回ある点は、評価できる。

- ・自分を知り、他者と協働しながら、最後は自分の資質・能力の育成がどうだったかというスパイラルが見えるプログラムになっているところが評価できる。
- ・企画団体が2つの組織と連携して実施することとしており、役割分担や連携については体制の構築されている。
- ・プログラムの内容については、前年度同事業の実績や、課題を踏まえ、バージョンアップも図られており、評価手法としても、コンピテンシーを可視化する新しい手法の活用もみられる。

(4) 非選定者及び非選定理由等

ア アイ・シー・ネット株式会社

- ・提案された手法を導入して、世界規模の大きな課題を高校生が扱うことができる身近な課題へ落とし込む構想は理解できる。一方で、テーマがある程度定められているものの、高校生が考える課題の例やフィールドワークの具体的な情報が分かりにくい点があった。
- ・G7のテーマを一定程度ブレイクダウンして、ローカルな話題、身近な課題から、改めてグローバルな課題や他分野へと拡大していくというイメージの持ち方は良いと考える。また、その方向性に沿う形として提案された手法を導入することも説得力がある。
- ・コンセプトから予定されている各プログラムについて、比較的詳細な具体的なイメージを描けていると思う。とりわけ、空論でなく現実にグリップしていく力を育成しようとする観点をもっているのは特に評価できる。
- ・生徒の状況に応じて、テーマをグローバルからローカルの視点へと広げ深めていく流れは評価できる。
- ・生徒の英語能力が分かってからになると思うが、もう少し英語を使って交流できる機会があれば良いと考える。
- ・資質・能力をどのように育成していくのかという点が少し不明確である。
- ・提案された手法を活用し、ローカルな課題からグローバルな課題へ発展させていくということであったが、实例を聞くと、ローカルな課題解決にとどまっていると感じられ、つなげていく難しさを感じられた。

イ 株式会社ミエタ

- ・プログラムの参加を通して、生徒がどのように成長するのかという目指す姿（ゴール）において、これまでの実践の事例からよく理解できた。
- ・生徒自身が成長したことを実感したり、気付いたりできるような働きかけ、フィールドワークの大切さが意識している。

- ・具体的な記載が少なく、どのように実際の業務に落とし込むかが不明瞭に感じた。また、グループ分けの考え方について説明が不十分であった。
- ・キャリア学習の落とし込みは、自分事として課題を解決していく過程を自己評価できるシステムの構築が図られるので評価できる。
- ・行動目標（＝社会実装）を設定することで、活動を通して個々の資質・能力の育成も図るというスキームは、生徒が何をゴールとして活動を進めるかということを理解しやすいので評価できる。
- ・現在の学習指導要領が目指す方向性を踏まえた企画・提案がされている。また、広島県としての特徴づくりや様々な生徒の実態に対する配慮がされている。省庁や他の自治体での授業プログラム・運営実績も豊富である。

ウ 株式会社日本旅行 広島支店

- ・国際交流ミーティングで様々な異なる分野の専門家を招へいし、ディスカッション等を行い、深めるインプットが工夫されている。一方で、探究プログラムをコーディネートし、学びを深める役割とともに、身に付けていく力を見取る工夫が必要である。
- ・国際交流ミーティングやインタラクティブ・プログラムは具体的に詳しく設計されている。一方、どういう手法で学びを促し、評価するのかといった技術的な部分が不明瞭である。
- ・チームグルーピング方法、評価方法の説明が不十分であった。
- ・資質・能力の育成の視点及びその伸びなどの変容について測定する取組が不明確である。
- ・「平和」を軸に取組を行っていく構成とインタラクティブ・プログラム及び国際交流ミーティングの内容等の整合性が不明確である。
- ・教育旅行での運営実績を踏まえて、魅力的な国際交流ミーティングの内容提案であったが、様々な内容がありすぎて、どうまとめ、どんな力を育てていくのが難しくなっているのではないかと感じる。また、人員体制に懸念が残る。